

ゆかたの着装を題材とする授業実践の試み

少人数制を導入した授業の効果

扇澤美千子	茨城キリスト教大学生生活科学部
川端博子	埼玉大学教育学部家政教育講座
仲田郁子	千葉県立流山南高等学校
薩本弥生	横浜国立大学教育人間科学部
堀内かおる	横浜国立大学教育人間科学部
斉藤秀子	山梨県立大学人間福祉学部
呑山委佐子	大妻女子大学短期大学部

キーワード: ゆかた、着装学習、少人数学習、衣服関心度

1. はじめに

2006年に教育基本法¹⁾が改正され、「伝統と文化を尊重し、それらをはぐくんできた我が国と郷土を愛するとともに、他国を尊重し、国際社会の平和と発展に寄与する態度を養うこと」が教育目標として規定された。これをうけて新学習指導要領²⁾には、衣生活分野において和服の基本的な着装や衣生活の文化に関心をもたせることが盛り込まれた。しかし、教育現場で和服や伝統的な衣生活文化に関する授業を行うには指導者側の準備(例えば和服の知識、着付け技能面の習得、和服や帯の準備)や指導法(和服の着付けは男女で着方に違いがあるため、説明・着装・評価まで一人の教師がどう運営するか)など課題が多いのが現状である。

われわれ研究チームは、ゆかたの着装を含む体験的学習を通して、日本の「きもの」文化を次世代に伝承し、世界へ発信するための教育プログラムを開発することを目的に、中学校・高等学校の生徒を対象としてゆかたの着装方法を学び、「きもの」文化に対する理解を深める体験型の授業実践研究を行ってきた。これまでに着付け手順 HP³⁾の作成、和服の構成・TPOなどの資料を提供し⁴⁾、協力校(中学校、女子高等学校)で授業を実践^{5、6)}してきているが、ここでは千葉県立流山南高等学校の協力を得て、男女共修で少人数制を導入した授業について報告する。

少人数教育に関しては平成22年3月から中央教育審議会において学級編成及び教職員定数の改善について検討が開始された。少人数学級の推進等によるきめ細やかで質の高い学びの実現に向けて、少人数学級の効果(学習行動、不登校の減少、学力の向上、指導者へのアンケート等)が中間報告⁷⁾されている。平成13年度以降、都道府県教育委員会が必要と認める場合、国の標準を下回る学級編成の弾力化が行われており、T・Tや少人数学級への取り組みは増加している。しかし、これらは小中学校での英語、数学等での実践^{8、9)}が多く、家庭科における少人数学級については、子どもの学びにとっての効果と教師にとっての効果についてまとめた齋藤による報告¹⁰⁾があるものの、学習者自身の調査結果によって実証されるのは今後の課題とされている。このように

家庭科の少人数学級の研究報告はほとんど見当たらないのが現状である。

協力校では2カ年にわたる授業実践の機会を得ることができた。2010年度には1クラス40名程度の男女を同時に指導する授業構成が求められたが、2011年度は担当教員の増員によってゆかたの着装の授業実践も20名程度の少人数指導が導入された。そこで、少人数体制をとることで授業の流れと内容、生徒の取り組み・理解にどのような影響をもたらすかを2カ年の比較を行い、実習の指導体制による教育効果について技能面から分析することを第1の目的とする。

さらに、家庭科の時間が十分確保できない現状において、ゆかたの着装を含む体験的学習を「きもの文化の継承」のみに終始せず、「個性を生かす着方・着方の工夫」にも繋げ、自らの衣服を主体的・総合的に選択できる姿勢を養う学習として位置づけられるのではないかと考えた。服装に対する意識とゆかたに対する意識を調査し、ゆかたの着装が着方学習や衣服関心度を高める可能性について探ることを第2の目的とする。

2．授業実践

2-1 協力校の実態

協力校の千葉県立流山南高等学校は、1・2年次に「家庭総合」を学んでいる。2010年6月（1年生男子35名、女子42名）、2011年6月（1年生男子81名、女子70名）で4時間扱いの授業を行った。2010年度は1クラス約40名の生徒を着付け授業の経験を有する教員が担当したが、2011年度から1クラスを2分割して（男女混合）新卒教員2名が加わり3名で授業を実施した。スライドやDVD等の利用はできなかったが、着方とたたみ方では、教師による示範をビデオカメラで撮影し、スクリーンに拡大投影することを試みた。

2-2 授業の目標と指導内容

本実践では、1時間（50分授業）2コマ続きで2週にわたる4時間の授業を編成した。（1）和服の基本的構造を知る、（2）ゆかたを自分で着装できる、（3）和装文化に親しみを持ち、生活の中でさまざまに活用しようとする意欲をもたせるの、3点を指導の目標とした。以下に2年間の授業内容を表1に示す。

2-3 調査項目

2011年度には、授業開始時にゆかたの着装経験の有無（1項目）、ゆかたへの興味・関心（5項目）、衣服への意識（6項目）について調査した。3・4時間目の着装を終えた時点で、生徒自身による着付け技能の事前自己評価と他者評価を実施した。

着装の振り返りとして9月に各自の着姿の写真を配布し、着装に関するアンケートを実施した。設問として、着姿の良し悪しを写真で再チェックする事後自己評価（6項目）、夏休みの着装体験、体験学習後のゆかたへの興味・関心、理解の程度（7項目）、ゆかたやきものに対する意識（13項目）を設けた。

表1 授業の内容

時間	2010 年度	2011 年度
1	<p>ゆかたの基本構造と部位の名称を知る。 きものとゆかたに関する経験を問う調査紙に記入させる。 ゆかたの構造や名称、男女の違いなどを説明し、ワークシートへ記入させる。 教師がゆかたの着付けを示範しながら、手順や形の良い着姿について説明する。</p>	
2	<p>4人のグループで帯結びを練習する。 男子の帯結び、次に女子の帯結びの説明し、その後交代で帯を結ぶ。 生徒をモデルに、ゆかたの着付けを示範する。</p>	<p>2人1組でゆかたを着用する・たたみ方を知る。 男子の着付け、次に女子の着付けを説明する。(腰ひもまでとし、帯は結ばない)。 写真資料で形の良い着姿を理解させる。交代で着装後、ゆかたをたたませる。</p>
3 ・ 4	<p>ゆかたを着用し、帯を結ぶ。 男子は帯結びを練習する。その間、女子の着付けについて説明し、練習させる。 女子が着付けている間、男子の着装について説明し、実習させる。着装後、男女とも帯を結ぶ。 写真撮影し、着装に関する事前自己評価・他者評価を記入させる。 時間の許す限り着続けさせる。その後、交代して同様のことを繰り返す。 ゆかたをたたみ片づけさせる。</p>	<p>ゆかたを着用し、帯を結ぶ。 男子に帯結びを説明する。男女ともゆかたを着装後、女子に帯結びを説明する。男女とも帯結びを練習させる。着装を整えるポイントとたたみ方の資料を配布する。 写真撮影し、着装に関する事前自己評価・他者評価を記入させる。 時間の許す限り着続けさせる。その後、交代して同様のことを繰り返す。 ゆかたをたたみ片づけさせる。</p>
<p>振り返り学習 各自の写真を配布し、事後評価を調査紙に記入させる。</p>		

(1)ゆかたへの興味・関心と衣服への意識

ゆかたへの興味・関心では、「着付け」「ゆかたと帯の色・柄の組み合わせ」「帯結びのアレンジ」「ゆかたの流行」「マナー・ルール」について、5.興味がある 4.やや興味がある 3.どちらでもない 2.あまり興味はない 1.興味はないの、5段階からの回答を得た。衣服への意識については「気に入った服を着ていると気分がよい」「友達から服が似合っているとほめられるとうれしい」「服装によってその人のイメージがかわる」「服をだらしく着くずすのはかっこわるい」「服の色や柄の組み合わせがマッチするように心がけている」「服装の流行を知るために店に行ったり雑誌をみるのは楽しい」について、5.そう思う 4.ややそう思う 3.どちらともいえない 2.あまりそう思わない 1.そう思わないの、5段階から選択する方式とした。

(2)着付けの評価

着付けの技能について、3・4 時間目に生徒が行った事前自己評価と他者評価は「腰ひもをきちんと結べている(腰ひも)」「胸元の合わせ具合がちょうど良い(えり)」「帯がきつすぎたりゆるすぎたりしない(帯の締め方)」「前おはしよりがきれいに整えられている(前おはしより)」「(女子)上半身の背中心がまっすぐになっている(背中心)」「帯リボンの形が整えられている

(帯リボン) (女子) 「後ろおはしよりがきれいに整えられている (後ろおはしより) 」 (女子) 「帯結びの形が整えられている (帯) 」 (男子) 「後ろすそが地面と平行になっている (後ろすそ) 」 「ゆかたをたたむことができる (たたむ) 」 の 10 項目である。以降、10 項目は、カッコ内の用語で表記する。実習の感想は、「外出できる出来ばえになっている」「もっと着付けを練習したい」「楽しかった」である。回答方式は、(1)に記載した衣服への意識と同様、5段階方式とした。

他者評価の内容は、事前自己評価と同様の着付け技能 10 項目と、手伝いの程度である。手伝いの程度は、「腰ひもを結ぶ」「おはしよりを整える」「帯を巻く」「帯を結ぶ」「ゆかたをたたむ」の 5 項目について、3. 手伝わなかった 2. 相談を受けた 1. 手伝ったの、3段階から選択させた。

さらに、生徒の着付けの理解習得度を測るため、教師評価を行った。本研究に参加する 1 名の大学教員が、前面と後面の写真を見て着付け技能を評価した。(次項に記載する振り返り学習の事後自己評価と同様に 5 段階方式で評価)

(3) 振り返り学習

着装の振り返りとして生徒に各自の着姿の写真を配布し、着姿の良し悪しをチェックする「胸元の合わせ具合がちょうどよい(えり)」「すそ合わせが広がらずきちんとしている(すそ合わせ)」「ゆかたの長さがちょうど良い(丈)」「帯をしめる位置がちょうど良い(帯の位置)」「前面のおはしよりがきれいに整えられている(前おはしより)」「外出できるできばえになっている(外出)」の 6 項目を、事前自己評価と同様に 5 段階方式で評価した。以降、6 項目はカッコ内の用語で表記する。

さらに、夏休みの着装体験、体験学習後のゆかたへの興味・関心、理解の程度(7 項目)、ゆかたやきものに対する意識「ゆかたを着ていると気持ちが高まる」「友達からゆかたが似合っているとほめられるとうれしい」「ゆかたを着ると自分の印象が変わる」「だらしなくゆかたを着るのはかっこわるい」「ゆかたを選ぶ時、ゆかたと帯の色・柄の組み合わせは大切だ」「ゆかたの流行を知るためにお店や雑誌をみるのは楽しい」「帯結びのアレンジは着付けの印象を左右する」「きものを着ると季節感を感じる」「きものについてもっと知りたい」「きものを着てみたい」「ゆかたやきものを着るとその人の印象が変わる」「ゆかたやきものは世界に誇れる日本の伝統文化の 1 つだ」「ゆかたやきものの着方は伝統やしきたりにあわせたほうがよい」(13 項目)を設けた。

(4) 2010 年度の調査項目

2010 年度には、ゆかたの着装経験の有無、生徒自身による事前自己評価と他者評価、実習の感想(6 項目)、着装の振り返りとしては、夏休みの着装体験、体験学習への感想、ゆかたに対する関心・理解・意欲(9 項目)に関する設問を設け、4. そう思う 3. ややそう思う 2. あまりそう思わない 1. そう思わないの、4 段階から選択する方式とした。

3. 結果と考察

3-1 ゆかたへの興味・関心と衣服への意識

2011 年度のデータでは、ゆかたの着装経験は全体の 6 割があると答え、男子は 27%、女子は 94%であった。ゆかたに対する興味・関心はすべての項目で女子が男子より高かった。着装経験

の有る者はゆかたに対する興味・関心も高い傾向がみられた。表 2 に示すように服装に対する意識はゆかたに対する興味・関心よりも全般的に高く、服装の流行は気になるが、ゆかたの流行にはあまり関心がない。男女とも服についてもゆかたや帯についても色柄の組み合わせにはこだわりが強く、帯結びのアレンジについては女子の方で関心が高い。

表 2 ゆかたへの興味・関心と衣服への意識 (平均値の順位)

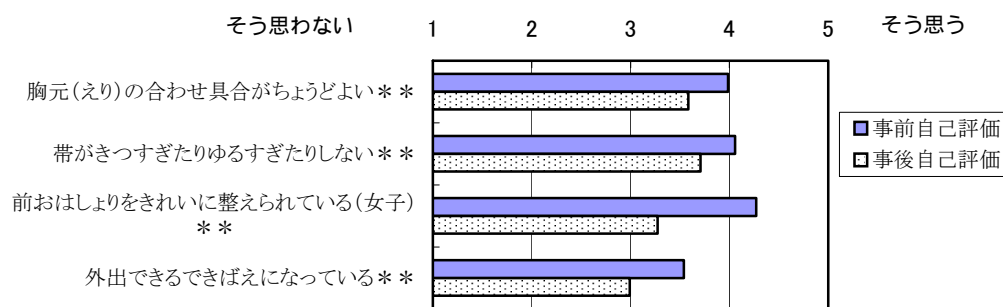
質問項目	全平均	女子			男子		
		順位	平均	SD	順位	平均	SD
1 気に入った衣服を着ていると気分がよい**	4.09	1	4.50	0.76	1	3.74	1.06
2 服装によってその人のイメージが変わる**	3.96	2	4.31	0.81	2	3.65	1.09
3 友だちから服が似合っているとほめられると嬉しい**	3.91	3	4.24	0.94	3	3.63	1.01
4 服の色や柄の組み合わせがマッチするよう心がけている**	3.72	4	4.09	0.91	4	3.40	1.03
5 ゆかたと帯の色柄の組み合わせ**	3.41	5	4.03	0.85	6	3.23	1.04
6 服をだらしなく着崩すのはかっこ悪い	3.31	7	3.96	1.08	5	2.88	1.24
7 服装の流行を知るために店に行ったり雑誌をみるのは楽しい**	3.29	10	3.73	1.02	8	2.79	1.16
8 ゆかたのマナー・ルール**	3.17	9	3.71	0.97	7	2.72	1.26
9 着付け**	3.13	11	3.63	1.02	9	2.63	1.13
10 帯結びのアレンジ**	3.10	8	3.62	0.99	10	2.56	1.08
11 ゆかたの流行**	2.97	6	3.41	0.94	11	2.40	1.09

t検定:有意確率** $p<0.01$ 、* $p<0.05$

3-2 事前自己評価と他者評価

(1) 事前自己評価

着付けの技能に関する自己評価は、着装実習の授業中(事前自己評価)と振り返り学習時(事後自己評価)の2回行った。事前・事後自己評価の平均値を比較する(図1)と事前>事後となり、事後には判断基準が厳しくなっている。学習によって着装への意識が向上したため、実践から時間を置いて客観視できたため等の理由が考えられる。



t検定:有意確率** $p<0.01$

図1 事前自己評価と事後自己評価の比較 (2011年度)

(2) 他者評価と手伝いの程度

着装後に実施した事前自己評価に比べて他者評価の平均値が高く、友だちに対する評価はより良い方に偏っていた。授業中に一部で「良く出来たと書いておくね。」「良くつけておくね。」といった声が聞こえていたので、正当な評価を求めるのは難しい部分もあるようである。

しかし、お互いにチェックポイントを確認する指導は、他者の視線を意識することで高揚感・嬉しさ等を感じる機会となり、着装を再認識することにもつながる学習の一環として有効と考

える。

「腰ひも」「おはしより」「帯」「ゆかたをたたむ」について手伝いの程度を問うた結果（手伝った群、相談を受けた群、手伝わなかった群）とゆかたへの興味・関心、実習への感想、ゆかたの着装経験との関連をそれぞれの群の平均値で比較した。図2では「帯結び」と「たたむ」の結果例を示した。「腰ひも」「おはしより」「帯結び」についても、手伝いに積極的に関わっている生徒ほど着付けや色柄の組み合わせに対する興味・関心、着付け練習への意欲が高いことが分かったが、「たたむ」に関しては、手伝った群の方が興味・関心、意欲等が高いとはいえず、他の手伝いとは違う傾向が見られた。また、ゆかたを着た経験があるかどうかで比較する（図3）と、経験がある方が帯結びを手伝う割合が高くなっているが、たたむについてはそれまでの経験とは関わっていない。このような違いは「たたみ方」はほとんどの生徒にとって授業で初めて取り組む課題だったことから生じたと考えられ、新しい課題は事前の経験やきものへの関心・意欲の程度に影響されることなく学習されていることが分かった。

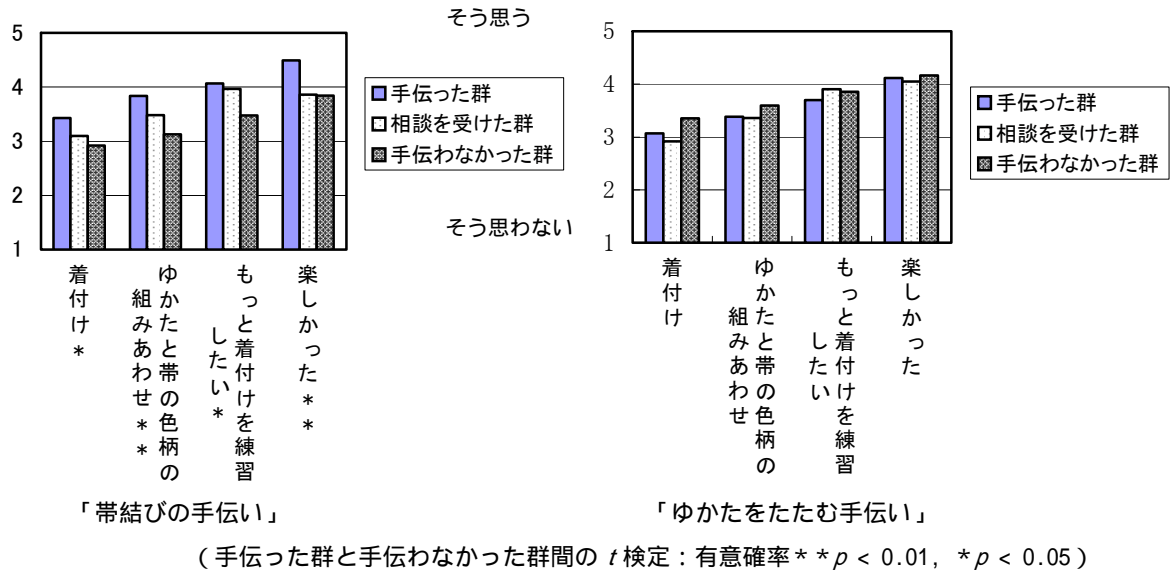


図2 手伝いの程度と興味・関心

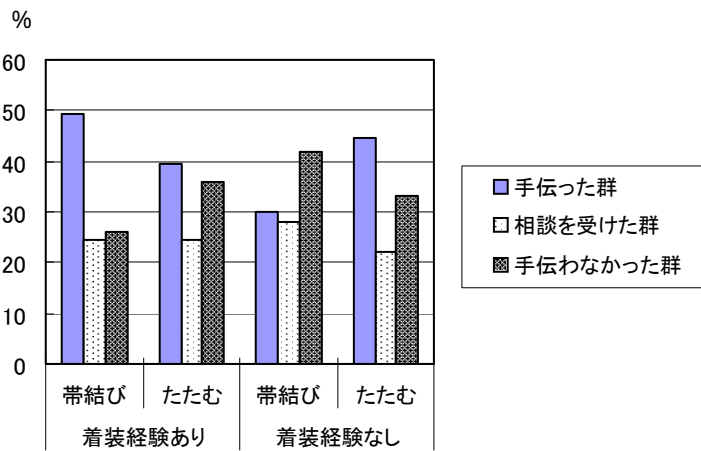
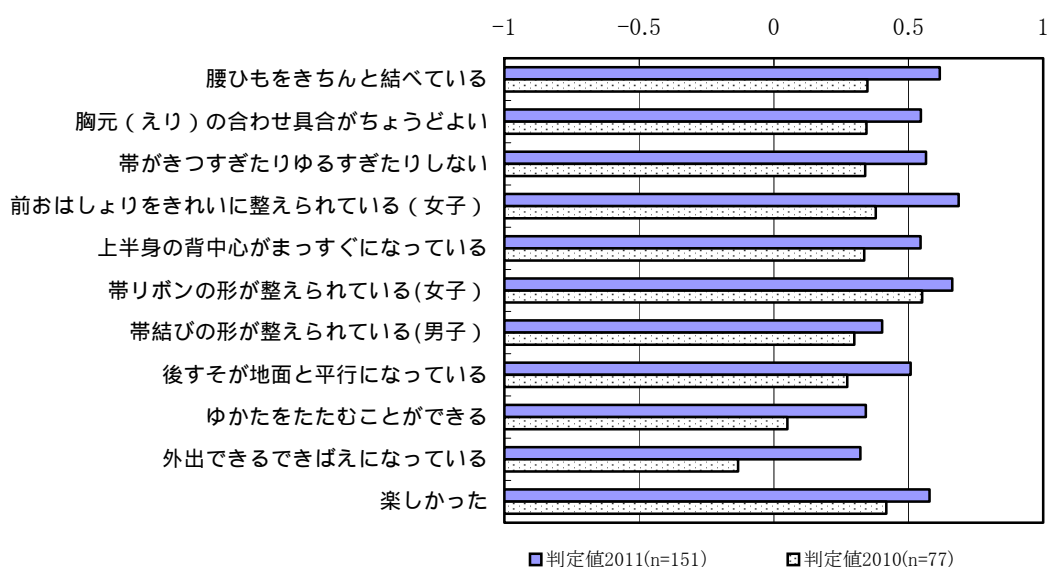


図3 着装経験と手伝いをした生徒の割合

3-3 少人数学習の効果

着実実践への少人数学習の効果を検討することは本研究の目的であり、ここでは 2010 年度、2011 年度の共通する調査項目を用いて両者の比較を試みた。両者は、回答の段階設定が異なるため、平均値による比較が困難であったことから、加重係数を用いた判定値による比較¹¹⁾を採用した。

まず、事前自己評価項目について判定値「-1（劣位）～ +1（優位）」による比較を図4に示した。着実技能の自己評価、たたみ方の学習、楽しさ等どの項目も 2011 年度の方が優位な値となり、少人数学習の効果が認められた。



判定値：加重係数を用いた判定値「-1（劣位）～ +1（優位）」

図4 2010年度と2011年度の生徒の事前自己評価の比較

また、2010年度と2011年度の振り返り調査における共通項目について判定値順位を比較する(表3)と、2010年度では腰ひも・帯結びの技能理解項目が上位に挙がった。これは、帯結びを2回繰り返した学習の効果と考える。2011年度は高揚感、印象の項目がそれらを上回った。このことは、少人数制の導入によって生徒が時間的・空間的・心理的に余裕が生じて、技術面のみならず、満足感、楽しさを感じながら取り組むことができたことを示唆する結果といえよう。

2年間関わった協力校の教師は、「少人数学習の実施でかなり大きな違いを実感した。室内にゆとりが増し、生徒に目が行き届く。教師の目の届かないところで、適当に済ませてしまう生徒がいなくなった。また男女それぞれ10人程度であるので、個別指導が必要な場面でも、全員を確実に指導することができ、着付けの技能を向上させ、理解度を高めることができたと思う。生徒の満足度も高まったのではないだろうか。」と報告しており⁶⁾、教師の実感を裏づける結果となった。しかし、「一人でゆかたを着ることができるか」の問いは両年度とも最下位となり、4時間の実践では一人で着る技能の習得までには至らないようである。

表3 振り返り調査の判定値順位（2010年度と2011年度の比較）

順位	2010年度	判定値	2011年度	判定値
1	腰ひもの結び方が理解できましたか	0.54	ゆかたを着ると普段と違う気持ちになりましたか	0.44
2	帯の結び方が理解できましたか	0.48	ゆかたを着るとその人の印象が変わりましたか	0.40
3	ゆかたを着たベアの印象は変わりましたか	0.41	ゆかたに関心がもてましたか	0.36
4	ゆかたに関心がもてましたか	0.39	腰ひもの結び方が理解できましたか	0.33
5	またゆかたを着てみたいですか	0.36	帯の結び方が理解できましたか	0.32
6	ゆかたを着ると普段と違う気持ちになりましたか	0.36	たたみ方が理解できましたか	0.24
7	たたみ方が理解できましたか	0.33	またゆかたを着てみたいですか	0.23
8	一人でゆかたを着ることができますか	0.16	一人でゆかたを着ることができますか	-0.02

3-4 写真にもとづく評価

(1) 生徒評価

生徒による事前自己評価項目のうち：着付けの技能（えり、帯の締め方、おはしょりなど）と着実習の感想（できばえ、着付け練習への意欲、楽しさ）について分析すると、着付けの技能では、着装の基礎となる腰ひもの結び方、胸元・すそ・帯の整え方については互いに関連が高く（相関係数：0.60～0.72）、帯の締め方は帯結びの形（男女）やおはしょりの整え方とも関連が高かった（相関係数：0.57～0.69）。着付けの技能と実習の感想には中程度の関連が認められ「外出できるできばえになっている」との相関は0.48～0.61で、できばえと着付け練習への意欲では相関係数：0.54、楽しさと意欲では相関係数：0.50となり、できばえが良く楽しいと感じた者は着付け練習にも意欲を示す結果となった。

(2) 教師評価

振り返り学習では、写真による生徒自身の再評価（事後自己評価）を実施し、同様の方法により教師も評価した。図5に教師評価基準の例を示す。生徒評価と教師評価の相関係数は（-0.09～0.32）程度で、両者の対応の程度は良いとはいえず、生徒はどこがうまくできていればきちんとした着装なのか、どのように着れば外出できるのかの理解が十分でないと考えられる。2011年度には、外出できるできばえを生徒自身が判断する上で具体的なチェックポイントの解説と写真資料の提供を試みたが、十分理解されていないという課題が残った。

着装のできばえについて2010、2011年度の教師評価を比較すると、図6のようにすそ合わせと帯の位置以外の10項目で2011年度の方が優位な値（判定値による）となり、少人数制のクラスは着付けの技能も向上したことが確認された。



図5 えりとすそ合わせの教師評価の例

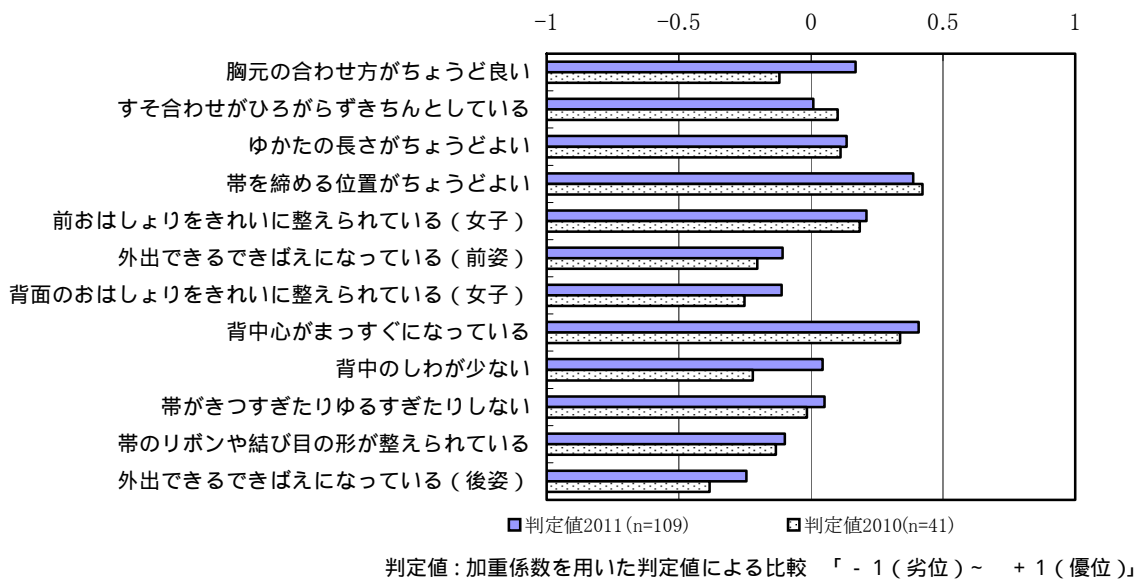


図6 2011・2010年度写真判定値比較 (教師評価)

3-5 衣服とゆかたやきものに対する意識

服装とゆかたに対する生徒の意識を知るために、衣服への意識 2-3 (1)と同様の質問をゆかたについても設定し、振り返り学習時に調査した。衣服への意識とゆかたやきものに対する意識との関連性を検討する (表 4) と「気に入った服を着ていると気分がよい」と「友だちから服が似合っているとほめられるとうれしい」は相関が高く (相関係数: 0.66)、ゆかたでも同様の結果 (「ゆかたを着ていると気分が高まる」と「友だちからゆかたが似合っているとほめられるとうれしい」の相関係数: 0.66) が得られた。また、色や柄の組み合わせに対する意識を検討すると、「服の色や柄の組み合わせがマッチするように心がけている」とほかの服装意識との相関は高く (0.44 ~ 0.67)、ゆかたへの意識でも「ゆかたを選ぶ時、ゆかたと帯の色・柄の組み合わせは大切だ」と他のゆかたの項目とは 0.41 ~ 0.61 の相関を示した。「服をだらしく着くずすのはかわい」への意識は他の服装意識とほとんど関連がないが、「だらしくゆかたを着くずすのはかわい」と感じている者は「ゆかたを選ぶ時、ゆかたと帯の色・柄の組み合わせは大切だ」と感じている者が多く (相関係数: 0.61)、他のゆかたへの意識とも 0.32 ~ 0.52 の相関を示した。服装に対しては、「色・柄の組み合わせをマッチさせ」「流行を知るために店や雑誌を見て」自分に似あったおしゃれすることを目指し、ゆかたの場合は「着崩すこと」は伝統やしきたりからの逸脱に繋がるため、決まりごとの中で自分らしさを表現するためには「ゆかたを選ぶ時の色・柄のアレンジ」が重要と感じているようである。以上のことは、ゆかたの着装実習が着方学習に結び付けられる可能性があることを示唆しており、次項 3-6 でも記述する。

ゆかたやきものに対する意識の調査からは、「きものについてもっと知りたい」者は「きものを着てみたい」 (相関係数 0.74) と思い、「ゆかたやきものは世界に誇れる日本の伝統文化の 1 つだ」と感じている者は「ゆかたやきものの着方は伝統やしきたりにあわせてほうがよい」 (相関係数 0.65) と考えていることが分かった。

次に衣服とゆかたやきものに対する意識 (19 項目) について主因子法による因子分析を行い、固有値の変化から 3 因子構造を仮定、再度、主因子法・Promax 回転による因子分析を行った結果、

表4 衣服とゆかたやきものに対する意識の相関

		衣服に対する意識(事前調査)					ゆかたやきものに対する意識(事後調査)																	
番号		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19				
		と気分がよい	気に入った衣服を着ている	友だちから服が似合っているとほめられると嬉しい	服装によってその人のイメージがかわる	服をだらしなく着崩すのはかっこ悪い	服の色や柄の組み合わせがマッチするよう心がけている	服の流行を知るために店に行ったり雑誌をみるのは楽しい	服装の流行を知るために店に行ったり雑誌をみるのは楽しい	ゆかたを着ていると気持ちが高まる	友だちWWからゆかたが似合っているとほめられると嬉しい	ゆかたを着ると自分の印象が変わる	ゆかたを着ると自分の印象は格好悪い	だらしなくゆかたを着るのは格好悪い	ゆかたを選ぶ時、ゆかたと帯の色柄の組み合わせは大切だ	ゆかたを選ぶ時、ゆかたと帯の色柄の組み合わせは大切だ	ゆかたの流行を知るためにお店や雑誌を見るのは楽しい	ゆかたの流行を知るためにお店や雑誌を見るのは楽しい	帯結びのアレンジは着付けの印象を左右する	ゆかたを着ると季節感を感じる	きものについてもっと知りたい	きものを着てみたい	ゆかたやきものは世界に誇れる日本の伝統文化の一つだ	ゆかたやきもの着方は伝統やしきたりに合わせてほしい
	平均値	4.09	3.91	3.96	3.31	3.72	3.29	3.14	3.39	3.16	3.89	4.25	2.91	3.36	3.97	2.94	3.08	3.69	4.07	3.73				
衣服意識	2	0.66																						
	3	0.40	0.42																					
	4	0.10	-0.04	0.12																				
	5	0.66	0.61	0.44	0.23																			
	6	0.51	0.50	0.38	0.18	0.67																		
	7	0.32	0.39	0.31	0.11	0.40	0.37																	
ゆかた・きもの意識	8	0.35	0.51	0.26	0.09	0.35	0.42	0.66																
	9	0.21	0.27	0.27	0.22	0.27	0.33	0.49	0.58															
	10	0.26	0.20	0.21	0.26	0.17	0.27	0.32	0.39	0.38														
	11	0.44	0.35	0.36	0.13	0.36	0.36	0.41	0.52	0.42	0.61													
	12	0.33	0.28	0.22	0.24	0.36	0.46	0.43	0.49	0.52	0.36	0.44												
	13	0.44	0.43	0.26	0.19	0.37	0.36	0.40	0.51	0.51	0.50	0.58	0.56											
	14	0.25	0.32	0.23	0.22	0.24	0.29	0.44	0.61	0.51	0.53	0.59	0.37	0.62										
	15	0.22	0.27	0.18	0.29	0.25	0.28	0.56	0.56	0.44	0.43	0.43	0.58	0.43	0.42									
	16	0.37	0.37	0.29	0.15	0.35	0.42	0.61	0.53	0.44	0.41	0.47	0.56	0.49	0.41	0.74								
	17	0.29	0.36	0.30	0.13	0.34	0.33	0.57	0.57	0.54	0.46	0.59	0.35	0.51	0.62	0.46	0.55							
	18	0.19	0.20	0.16	0.25	0.18	0.27	0.24	0.41	0.35	0.45	0.55	0.31	0.48	0.68	0.40	0.41	0.55						
	19	0.13	0.14	0.18	0.19	0.29	0.28	0.27	0.41	0.45	0.34	0.44	0.26	0.37	0.54	0.36	0.34	0.55	0.65					

1%水準で有意
5%水準で有意

3因子までの累積寄与率は62.7%であった。第1因子寄与率：43.0% (項目番号 18、14、19、11、17、10、13):「和服の伝統・しきたりに関する因子」第2因子寄与率：12.3% (5、1、2、6、3):「衣服への興味・関心に関する因子」第3因子寄与率：7.4% (15、16、7、12、8、9):「ゆかたやきものへの興味・関心に関する因子」とし、以降の解析に移る。

3-6 衣服関心度と学習効果

3-5 で求めた第2因子「衣服への興味・関心に関する因子」は他の因子との関連(第1因子との相関：0.46、第3因子との相関：0.57)が認められたので、第2因子得点をもとに3分割し、衣服関心度高群・中群・低群として着装学習に対してどのように感じているのかを振り返り調査の項目について分析した。表4に示すように「衣服関心度高群」ではすべての項目の平均値が高く、衣服関心度が高い者はゆかたへの興味・関心・理解、ゆかたに対する意識ともに高いことが確認された。

さらに、高群と低群の平均値の差を求めると、着付けの技能や知識の習得に関しては、関心度が低い群との差が縮まっていた。このことから、衣服関心度が低いグループでは着付けやたたみ方等の新しい知識や技能に対する学習が理解度を高めることにつながり高群との差を減少させた

表5 衣服関心度の高・低群の平均値の差

項目	全	高群(n=48)		低群(n=43)		高群-低群	
	平均	平均	SD	平均	SD	差	順位
1 ゆかたを選ぶ時、ゆかたと帯の色・柄の組み合わせは大切だ**	4.26	4.71	0.54	3.77	0.95	0.94	9
2 ゆかたやきものは世界に誇れる日本の伝統文化の一つだ	4.06	4.40	0.74	3.81	0.98	0.58	15
3 ゆかたを着ると季節感を感じる**	4.01	4.38	0.61	3.60	1.22	0.77	11
4 だらしくゆかたを着るのは格好悪い*	3.92	4.25	1.04	3.53	0.98	0.72	12
5 ゆかたを着ると普段と違う気持ちになりましたか**	3.79	4.19	0.79	3.30	1.23	0.89	10
6 ゆかたやきものの着方は伝統やしきたりに合わせたほうがよい**	3.70	3.94	1.02	3.40	1.07	0.54	16
7 ゆかたやきものを着るとその人の印象が変わる**	3.70	4.27	0.80	3.23	1.09	0.98	7
8 ゆかたに関心がもてましたか**	3.61	4.25	0.89	2.93	1.06	1.32	1
9 腰ひもの結び方が理解できましたか	3.54	3.79	0.97	3.33	0.87	0.47	18
10 帯の結び方が理解できましたか	3.52	3.74	0.97	3.35	0.95	0.40	20
11 友達からゆかたが似合っているとほめられると嬉しい**	3.43	4.04	0.85	2.77	1.19	1.27	3
12 帯結びのアレンジは着付けの印象を左右する**	3.38	3.92	0.87	2.84	1.04	1.08	5
13 またゆかたを着てみたいですか**	3.35	3.92	1.15	2.63	1.16	1.29	2
14 たたみ方が理解できましたか**	3.34	3.46	1.11	2.98	1.26	0.48	17
15 ゆかたを着ていると気持ちが高まる**	3.15	3.73	0.94	2.58	1.05	1.15	4
16 ゆかたを着ると自分の印象が変わる**	3.15	3.46	1.15	2.79	0.99	0.67	13
17 きものを着てみたい**	3.08	3.58	1.05	2.53	1.18	1.05	6
18 ゆかたの流行を知るためにお店や雑誌を見るのは楽しい**	2.93	3.29	1.24	2.33	1.08	0.97	8
19 きものについてもっと知りたい*	2.93	3.23	1.13	2.60	1.09	0.62	14
20 一人でゆかたを着ることが出来ますか	2.84	3.04	1.29	2.62	1.06	0.42	19

t検定: ** $p < 0.01$ 、* $p < 0.05$

と推察される。「ゆかたやきものは世界に誇れる日本の伝統文化の1つだ」の平均値の順位は高く高群と低群の差が小さかったことから衣服関心度に関わらずゆかたやきものは伝統文化の1つとの認識は高いこと、逆に「一人でゆかたを着ることが出来ますか」は平均値が低く差が小さいことから関心度が高くても一人で着る自信には結び付いていないことが明らかとなった。

また、事前・事後調査のゆかたに対する設問について着付け、色柄の組み合わせ、帯結びのアレンジ、ゆかたの流行、ゆかたの伝統やしきたりについての興味・関心の程度を衣服関心度の違いによって比較すると、図7に示すように学習後のゆかたに対する関心度は高群よりも低群での向上が著しいことが明らかとなった。低群には男子の割合が多いが、本学習は男子にとってもゆかたに対する興味・関心を向上させる効果があったといえよう。ゆかたの着装実習を通して和装文化にふれ、日本の伝統文化に対する生徒の興味・関心を喚起し、日常の衣生活をより豊かにしようとする意識へとつなげていく授業展開の可能性を示す結果となった。

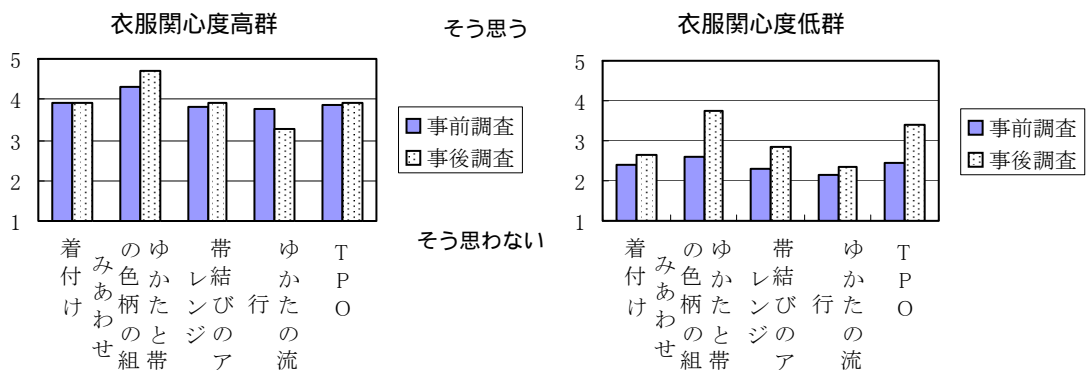


図7 ゆかたに対する関心の程度 (事前調査と事後調査の平均値)

4. まとめ

本研究では、千葉県の公立高等学校の協力を得て、男女共修で少人数制を導入したゆかたの着装の体験学習の実践について報告する。少人数体制をとることで授業の流れと内容、生徒の取り組み・理解にどのような影響をもたらすかを2010年度・2011年度2カ年の比較をもとに、実習の指導体制による教育効果を技能面から分析した。さらに、服装に対する意識とゆかたに対する意識を調査し、ゆかたの着装が着方や衣服への関心度を高める可能性について考察した。

ゆかたの着付けの自己評価項目について判定値により比較すると、着装技術の自己評価、たたみ方の学習、楽しさなどの項目でも少人数学習を実施した2011年度の方が優位な値となった。また、振り返り学習の調査項目について判定値順位を比較すると、少人数制導入によって生徒が技術面のみならず、満足感、楽しさを感じながら取り組むことができたことを示唆する結果が得られた。

2010・2011年度の着装のできばえを教師が評価した結果、すそ合わせと帯の位置以外の10項目で2011年度の方が優位な値となり、少人数制のクラスは着付けの技能も向上したことが確認された。

2011年度の調査をもとに考察すると、ゆかたに対する興味・関心はすべての項目で女子が男子より高かった。着装経験の有る者はゆかたに対する興味・関心も高く、友だちの手伝いにも積極的に関わる傾向がみられた。

衣服関心度が高い生徒は、ゆかたへの興味・関心・理解、ゆかたに対する意識ともに高いことが確認された。また、ゆかたへの興味・関心に対する設問を授業の前後で比較すると、衣服関心度が低い生徒も着付け、ゆかたや帯の色柄の組み合わせ等についての興味・関心の程度が大きく向上していた。このことは、ゆかたの着装実習がゆかたや伝統文化への興味・関心を喚起し、さらに衣服関心度に影響をおよぼし、着方学習に結び付けられる可能性があることを示唆している。さらに、衣服関心度にかかわらずゆかたやきものは伝統文化の1つであるとの認識が高いことから、ゆかたの着装を通して、和装文化への親しみを抱かせることができた。

本研究は文部科学省委託事業「特色ある共同研究拠点の整備の推進事業」服飾文化共同研究拠点における採択課題「『きもの』文化の伝承と発信のための教育プログラムの開発 『きもの』の着装を含む体験学習と海外への発信」の一環として実施した。

引用文献

- 1) 教育基本法：www.mext.go.jp/b_menu/kihon/houan.htm
- 2) 文部科学省：高等学校学習指導要領解説 家庭編 30-31 (2010)
- 3) 着装などの e-learning 教材：<http://kimono-bunka.ynu.ac.jp>
- 4) 斎藤秀子、呑山委佐子編集：ゆかたがわかる - 歴史・染め・縫い方・着方・たたみ方がわかる

- 文化ファッション研究機構 平成 22 年度服飾文化共同研究 (2011)
- 5) 薩本弥生、川端博子、堀内かおる、扇澤美千子、齋藤秀子、呑山委佐子：「きもの」文化にかかわる教育プログラム開発の教育デザイン、横浜国立大学教育デザインセンター 創刊号 100-102 (2010)
- 6) たとえば、川端博子、松井萌恵、薩本弥生、堀内かおる、扇澤美千子、齋藤秀子、呑山委佐子：浴衣の着装を題材とした授業実践の試み、日本家政学会第 63 回研究発表要旨集 148 (2011)
- 7) 文部科学省：「少人数学級の更なる推進等によるきめ細やかで質の高い学びの実現に向けて」～教職員定数の改善～ 公立義務教育諸学校の学級規模及び教職員配置の適正化に関する検討会議 (中間とりまとめ) (2011) http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/hensei/003/1311665.htm
- 8) 工藤周一：生徒の意欲や関心を引き出す効果的な T・T による指導法，中等教育資料 27-31 (1998)
- 9) 櫻田裕美子、岡田典子、山崎博敏：学級規模とチーム・ティーチングの教育的効果 教科別に見た有効性、日本教育社会学会大会発表要旨集録 54 30-31 (2002)
- 10) 齋藤美保子：複式学級における家庭科の学び、少人数学級へのいざない、鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要 21 77-86 (2011)
- 11) 平井孝治、奥山武生、川瀬友太、清土裕文：実感を反映した課題レベルの判定 - 平均律による加重係数を用いた判定値 -、立命館経営学 47 175-203 (2009)

(2012年 3月 31日提出)

(2012年 5月 18日受理)

An Approach to Implement Wearing of Yukata into Class Lessons The Effect of Introducing Small Group Lessons

OUGIZAWA, Michiko

College of Life Science, Ibaraki Christian University

KAWABATA, Hioroko

Faculty of Education, Saitama University

NAKADA, Ikuko

Nagareyama-Minami Senior High School

SATSUMOTO, Yayoi HORIUCHI, Kaoru

Faculty of Education and Human Sciences, Yokohama National University

SAITOH, Hideko

Faculty of Human and Social Services, Yamanashi Prefectural University

NOMIYAMA, Isako

Junior College Division, Otsuma Women's University

Abstract

This is a report on experiential learning that were conducted, in cooperation with Nagareyama-Minami Senior High School, with mixed small groups in compulsory school class lessons where the students actually experienced learning to wear the yukata on their own. The first objective was to analyze the educative effect of the instruction system on the skill achievement. The second objective was to explore the possibility of enhancing the students' interest towards clothes through learning to wear the yukata.

When we compared the results of the wearing skills of fiscal year 2010 and 2011, we found that the evaluation value given by both the students themselves and the teachers were superior in 2011. Moreover, when we compared the judgment value orders of the investigation items after the experiential learning, the results indicated that students could feel more satisfaction and enjoyment along with the mastering of skills through lessons in small groups.

It was confirmed that students with higher degree of interest towards clothes showed higher interest, concern, understanding, and consciousness towards yukata. It was also confirmed, after comparing the results of surveys conducted before and after the experiment on items concerning yukata, that degree of interest and concern towards wearing the yukata, learning about the design and color combination with the belts, etc., grew higher after the experience even in the group that had shown low interest towards clothes. The result suggests that the wearing practice of the yukata can arouse interest and concern towards both the yukata and the traditional culture, and in addition, has the possibility to influence the degree of interest towards clothes and eventually lead to implementing class lessons on how to put them on.

Key Words: Yukata, Learning to wear the yukata, Small group lessons, Degree of interest in clothes.